

ホームID	ホーム名		法人名			評価日		
2822	ライフ&シニアハウスリボンシティ川口		(株)生活科学運営			H29.1.12		
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク					H29.2.8		
<b>評価結果</b>								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	B	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	B	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	C
1.3.2	A	A	2.4.1	A	B	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	B
1.4.1	B	B	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	B	B	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	B	B	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	B	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	B	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	B	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	B	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-3-3	サービスの質向上を目指し、GA活動（業務改善活動）の一環として、入居者の入浴時間を延ばした一人1時間の変更に取り組んでいる。時間の変更に伴ったシフト・勤務体制の見直し、スタッフの活用など体制を検討し、実行している。入居者はゆったりと入浴できる他、職員にも余裕ができ、入居者との個別の時間の増加により、マンツーマンで館内を一緒に歩き、以前より傾聴できるようになるなど、手厚いサービスの実現に寄与している。
2-3-4	毎年、食事満足度調査により他のハウスの結果も含めてさまざまな角度から分析を行い、運営懇談会でフィードバックをしている。また、ハウス独自の入居者も参加できる「ミニ懇談会」を開催し、例えば、希望のあったさんまの焼き方で調理する他、鍋物の材料の希望を話し合うなど、入居者意向の実現に努めている。さらに、看護部門から家族アンケートを行い、医療面の要望を聞く等、利用者ニーズの把握を積極的に進めている。
4-2-2	アクティビティは、こころカラダほぐし、ゆうゆう体操、太極拳の他、毎週土曜日に「脳活配布」する等、身体と頭の両方を使うメニューを取り入れている。また、傾聴ボランティアがサポートすることもあり、入居者同士のコミュニケーションの場にもなっている。さらに、新年会・お花見・イチゴ狩りなど季節の行事もあり、なかでも秋祭りは入居者が小物作成・販売するなど、主体的に参加できるイベントとなっていて自立支援を促している。
5-1-1	お正月メニュー・恵方巻き・クリスマスメニューなど季節ごとの行事食を月2回取り入れている。また、焼肉パーティー・目の前で握るにぎりずし・焼き餃子・芋煮・かき氷・お汁粉など入居者の希望を盛り込んだ食事が提供され、お米や魚は素材にもこだわっている。さらに、朝食および夕食が選択食になっており、昼食はうどん・そばなどの単品販売も提供するなど、入居者が食事を選ぶ楽しみがあり、食事の楽しさにつながっている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
1-4-1	新入職員は、入職時研修として総合基礎講座を受講することとなっている。講座では、倫理と法令、認知症について等、職員として必要な知識・ルールを学習している。また、中堅以上の職員は、リーダー研修等の研修制度が用意されている。しかしながら、職員一人ひとりの個別育成計画は策定されていない。職員の知識、技術レベルに沿った研修企画と一人の職員に焦点を当てた個別育成計画の策定に期待したい。
1-2-3	経理業務に関する内部統制を定めた本社作成の「経理規程」にもとづき、入出金担当者とハウス長とで役割分担をしている。ハウス長が内容を承認後、入出金の手続きおよび伝票の起票は入出金担当者が行っている。また、伝票は会計システムに入力し、会計帳票として出力され、月末にハウス長が内容確認を行い確定する。一方、これら一連の流れに関する社内検査マニュアルにある社内監査が行われていないため、早急を実施することが望まれる。
2-4-1	入居者や家族等および取引業者からの金品授受について、ハウスの方針としては、OJTマニュアル内に謳っているとおり、「受け取らない」のが原則であり、受け取らないようにしている。しかし、職員と入居者のコミュニケーションの中では、いろいろなケースが予測され、受け取らざるを得ないケースも想定した対応も必要と考えられる。ハウス長への報告やその後の入居者・家族等への対応を規定したマニュアル等の策定に取り組まれない。
6-3-1	本社企画の組織性の研修には、ハウスから参加者を送り、計画的に実行されている。一方、専門性の研修としては、ハウス内の勉強会で認知症研修などいくつかの研修を実施するにとどまっている。特に、生活相談員や直接処遇職員は、三大介護をはじめとした高齢者の心身特性や介護に関する知識および技術のスキルアップが期待され、職員の経験や知識レベルに応じた研修計画の策定・実施が求められる。